

令和2年度 熊本県立荒尾支援学校進路便り第6号（通巻NO. 52）

わーく&らいふ

令和2年11月24日 進路指導部 発行

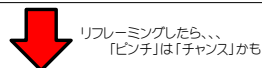
■CONTENTS■

開催中！ARA・SHI福祉就労セミナー
令和2年度進路・福祉に関するニーズ調査結果（別紙）

開催中！ARA・SHI福祉就労セミナー

ARA・SHI福祉就労セミナー2020

令和2年度
会議室の職員室化に伴い、継続の危機に！



リフレーミングしたら、
「ピンチ」は「チャンス」かも

★学外へ会場変更
荒尾市総合文化センターで実施
→駐車場問題解決！
→地域の小中学校保護者にも呼びかけ！
★説明方法の変更
→地域別説明会からサービス別説明会に
→地域別参加数増減の解消！
★例年より2ヶ月遅れて9月スタート！



ピンチ！

チャンス！

■ピンチをチャンスに！

児童生徒数増加による、会議室の職員室化により、存続と在り方を検討したセミナーは、荒尾市総合文化センターをお借りする形で、リニューアルスタートを切ることができ、3回目まで無事終了しました。

今年は荒尾市内の小中学校にも案内を拡大し、毎回参加いただいていることも嬉しい成果です。

ただ、コロナ禍の最中であるため、保護者の中には、参加を控えておられるとの声も聞こえてきており、残念ながら例年より参加者は少なくなっていますが、その分、施設の方とじっくり話す時間が生まれてきています。

広い会場の収容人数の半分以上を定員にして、感染対策しておりますので、どうぞふるってご参加ください。

これからの予定

12月9日 就労継続支援A型
1月29日 就労継続支援A型
就労移行支援
2月10日 就労継続支援B型
3月17日 就労継続支援B型



■第3回「もっと知りたいふくしの話」より



第3回（11月）は、4つの委託相談支援事業所の皆様（りんくる、いこいば、ふれあい、荒尾市社会福祉事業団）の協力により「もっと知りたいふくしの話」と題して、保護者の皆様よりお寄せいただいた疑問・質問にたいねいにお答えいただきました。参加した保護者の声には「とてもわかりやすかった。」「参加が少ないのがもったいない。」とあり、司会をした私も、「聞いてスッキリ！」する内容でした。当日の資料をご希望の方は、連絡帳を通じてお知らせください。以下に、よくお尋ねのある「障害支援区分」に関する内容を抜粋して掲載します。ご覧ください。

【障害支援区分に関して】

■区分が決まる流れ

- ①認定調査（福祉課の担当者が実施する80項目の聞き取り）
- ②コンピュータによる1次判定
- ③審査会（1次判定結果と、医師の意見書を踏まえて最終判定）
- ④区分決定・受給者証の発行

■区分によって何がかわるか

- ・利用できるサービスが決まる。生活介護は3～6、施設入所支援は4～6が対象
- ・サービスの量が変わる。（ホームヘルプの場合、利用できる時間数が決まる。）

■認定調査（親への聞き取り）の際に注意すること

- ①「日常生活の状況」を聞く項目（16項目ある）では、「支援なしに一連の行為をひとりで行えるか。」を基準に答える必要がある。
- ②「支援なしに」の判断には、「ひとり暮らし」をすると想像して考えると良い。こう考えると、親や周囲のものが自然にやっている「支援」「配慮」はたくさんあることに気づける。
- ③聞き取りの際はあいまいに「だいたいできる。」と答えてしまわずに、「できないこと（場合）がある。」ことを具体的にきちんと付け加えることが必要。

編集後記

わーく&らいふ第5号で、「現場実習」や「施設体験」が進路決定の重要な鍵となる学習であることをお伝えしました。11月は、一般学級2年生の「現場実習」、重複学級3年の「施設体験」が終わり、次は一般学級1年の「現場」、重複学級中学部の施設見学という時期でしたが、玉名のクラスターをはじめとした感染の拡大によりやむなく中止となりました。

私たち国民のひとりひとり、ぬかりなく、新しい生活様式を守り、感染防止に努めるしかありません。そしてこれが結果として「進路選択」の学習の実施にもつながることを踏まえ、皆で気持ちを引き締めて参りたいと思います。（谷口）

令和2年度 荒尾支援学校 進路・福祉に関するニーズ調査

■調査の目的

卒業後の進路・福祉の利用に関する本校保護者の考えを質問紙法（質問一覧参照）でお聞きした結果をまとめて、本校ホームページなどのさまざまな方法で公開・提供します。

荒尾支援学校に在籍する児童生徒の進路ニーズとその傾向に関する情報を、行政・関係機関の皆様と共有し、本校を取り巻く有明圏域の福祉の一層の発展充実に寄与したいと考えました。

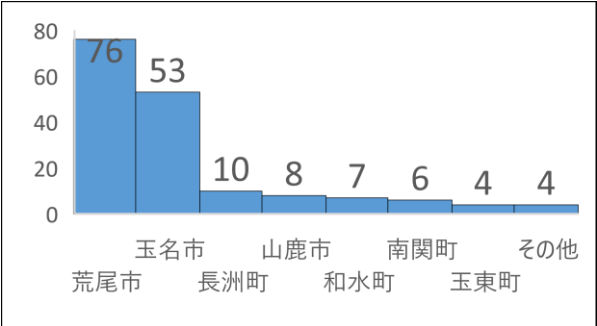
質問一覧	
I	基本情報（学年・性別・手帳段階・居住地）
II	進路希望 ①日中活動の場（7つの選択肢より選択） ②生活の拠点（4つの選択肢より選択）
III	福祉サービスの利用状況 短期入所、日中一時支援、放課後等デイ、相談支援の利用状況
IV	進路を考える際に困ること ①福祉について（5つの選択肢より選択） ②就職について（4つの選択肢より選択） ③進路選択全般について（4つの選択肢より選択） ④自由記述
V	進路情報について（自由記述）

	在籍数	回答数	回答率
小学部一般学級	48	35	72.9%
中学部一般学級	37	35	94.6%
高等部一般学級	68	45	66.2%
重複障がい学級	16	13	81.3%
全 体	168	128	76.2%

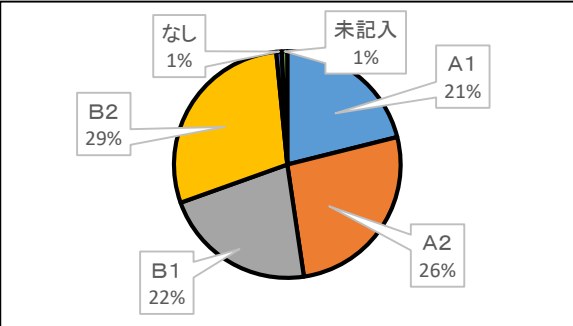
アンケート回答率

■中学部一般学級の回答が最も高くなっており、それに対して進路選択間近な高等部一般の関心が低いという気になる結果です。

I 基本情報



■本校の児童生徒の居住地は、9つの市町となっています。このうち荒尾市・玉名市で全児童生徒数の、実に77%を占めています。



■療育手帳の所持状況は、B2段階が最も多く、次いでA2、B1、A1の順となっています。

II 進路希望 ①日中活動の場

	小 一般	中 一般	高 一般	重複 学級	人数	割合
1就職	3	6	14	0	23	18.0%
2就労系福祉施設	13	13	16	1	43	33.6%
3介護系福祉施設	2	2	10	9	23	18.0%
4職業能力開発校	0	0	0	0	0	0.0%
5進学	2	9	0	0	11	8.6%
6その他	0	0	0	0	0	0.0%
7わからない	14	4	5	3	26	20.3%
未回答	1	3	0	0	4	3.1%
	35	35	45	13	128	

■希望順に「就労系福祉施設」「就職」「介護系福祉施設」となっています。これらの希望数は、向こう12年間分の潜在的利用者数とも考えられ、有明圏域福祉サービスの整備の参考になると考えられます。
また、小学部で「わからない」の回答数が4割にのぼることから、福祉や就労に関する情報提供支援に更に力を入れる必要性がうかがえます。

Ⅱ 進路希望 ②生活の場

	小 一般	中 一般	高 一般	重複 学級	人数	割合
1 自宅	28	26	36	11	101	78.9%
2 入所施設	1	3	7	1	12	9.4%
3 グループホーム	4	1	0	0	5	3.9%
4 一人暮らし	1	3	1	0	5	3.9%
5 未回答	1	2	1	1	5	3.9%
	35	35	45	13	128	

■生活の拠点は、卒業後も 8 割弱が自宅での生活を希望されていますが、入所ニーズも 1 割弱あります。
特に高等部では進路決定の節目になるため比較的高くなっており、家族の状況によって入所ニーズが高まるものと考えられます。

Ⅲ 福祉サービスの利用状況

1 ショートステイ

	小 一般	中 一般	高 一般	重複 学級	人数	割合
利用している	8	2	7	4	21	16.4%
していない	25	24	36	1	86	67.2%
無回答	2	9	2	8	21	16.4%
	35	35	45	13	128	

■利用実績があるのは16.4%にとどまりますが、平素の個別面談で耳にするニーズはもっと多い印象です。サービス提供事業所数・全体量に課題があると思われます。

2 日中一時支援

	小 一般	中 一般	高 一般	重複 学級	人数	割合
利用している	16	9	9	8	42	32.8%
していない	17	20	32	0	69	53.9%
無回答	2	6	4	5	17	13.3%
	35	35	45	13	128	

■ショートステイ同様に小学部一般学級での利用実態が比較的多くなっています。低年齢層のご家族ほど、サービス利用ニーズが高いものと思われます。

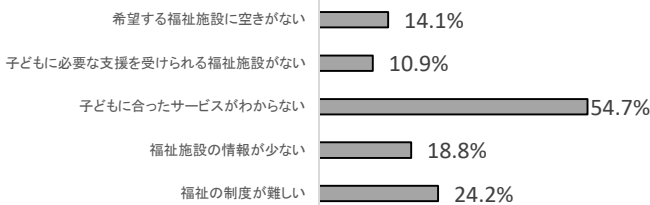
3 放課後等デイサービス

	小 一般	中 一般	高 一般	重複 学級	人数	割合	高一般 以外
利用している	29	27	22	10	88	68.8%	79.5%
していない	4	4	20	0	28	21.9%	9.6%
無回答	2	4	3	3	12	9.4%	13.3%
	35	35	45	13	128		

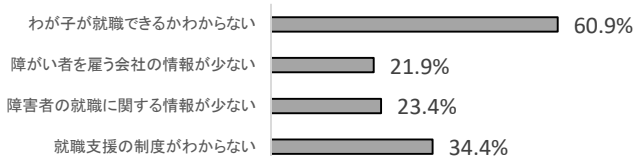
■利用実績が68.8%と他のサービスに抜きん出ています。
但し、高等部一般学級では利用実績48.9%と低く、中学校特別支援学級から入学してくる生徒のご家庭では、福祉サービスの利用ニーズが低いことがうかがえます。

Ⅳ 進路を考える際に困ること

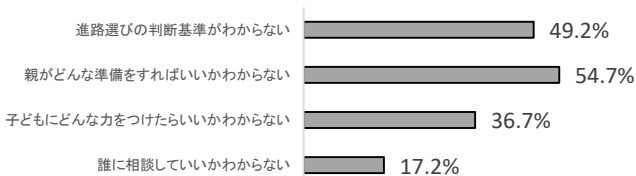
①福祉について



②就職について



③進路選択全般について



■進路を考える際に困ることを、「福祉」「就職」「進路選択全般」に分けてお尋ねしました。

- ①「福祉」に関する困りごととしては「子どもに合ったサービスがわからない。」を半数以上が挙げています。
 - ②「就職」に関する困りごととしては、「わが子が就職できるかわからない。」を6割が挙げています。
 - ③「進路選択全般」に関する困りごととしては、「親がどんな準備をすればいいかわからない。」「進路選びの判断基準がわからない。」がそれぞれ5割程度が挙げています。
- このような結果から、福祉行政・労働行政・福祉サービス事業者・学校が連携協働し、本人・保護者のニーズに即した「情報提供支援」体制強化が必要と思われます。

<お問い合わせ> 熊本県立荒尾支援学校
担当：進路指導部（谷口）
電話：0968-62-1131

Ⅳ 進路を考える際に困ること

④自由記述

■小学部一般学級保護者

- まだ入学したばかりで将来のビジョンがなかなか見えてこない。（複数）
- できれば自宅近くの事業所というおおざっぱなイメージしかない。
- 本人が集中してできることや好んでできることなどを強みにして進路を考えることができたらいいなと思う。親としても将来を見据えた情報があれば心強い。

■中学部一般学級保護者

- 安心できる生活環境や仕事で何を選べばいいのかわからない。（複数）
※利用時の送迎等の情報、子どもにできる仕事があるか。など
- 娘に合った職場を一緒に探し、特性が活かせる職場で自信をつけて沢山の経験をして視野を広げたい。

■高等部一般学級保護者

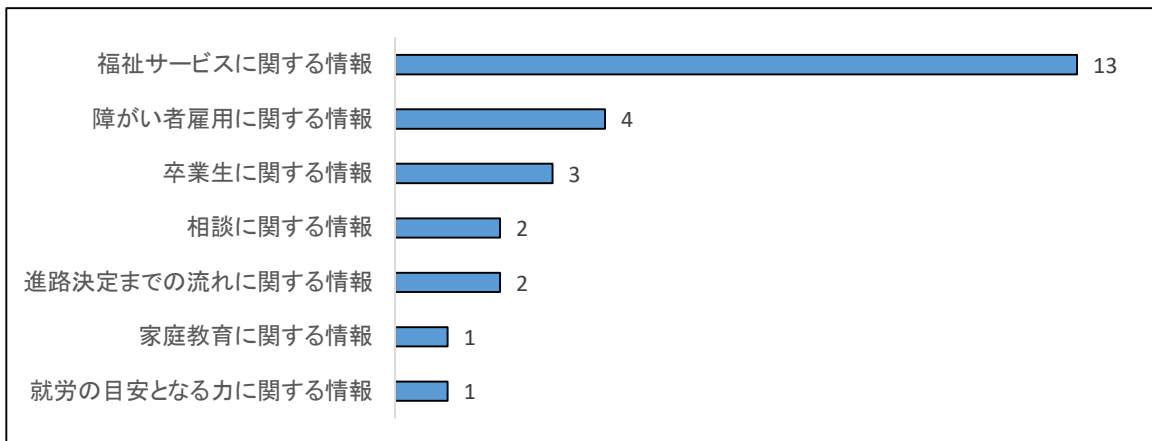
- 放課後等デイサービスを利用しているので、その事業所との信頼関係があり希望している。将来的に子どもに本当に合っているのか、他にも合っている事業所があるのではないかと悩む。
- 現在、相談支援事業所に契約していなくて今から探して決めないといけなが、どう動けばよいか分からない。本人に合った事業所が見つかるか不安。
- 子どもの特性を生かした支援をしてくださる施設、何か一つでも良いので生き甲斐になるもの、楽しみをサポートしてくださる施設に巡り合えるよう、情報を集め、実際に見学し決めたい。
- 進路について、子どもと話し合いながら決めていきたい。

■重複障がい学級保護者

- 家庭の状況と照らし合わせると施設のサービスの状況がそれぞれ一長一短であり、悩ましい。
- 重複の子どもでも就職出来る所（短い時間でも）があるのか、又、あるとすれば、それが我が子に出来るような仕事なのかを知って、判断したい。
- 進路の事をまだあまり具体的に考えたことがない為、困ることが思いつかない。

V 子どもの進路を考えるに当たってほしい情報

自由記述の内容を分類すると下図のようになります。それぞれの項目の詳細を以下に記します。



■福祉サービスの利用に関する情報 13件

- ・子どもに合ったサービス提供のある施設 ・定員の情報
- ・グループホームの状況 ・重度障がい者に合う施設 ・見学希望
- ・特性を活かせる進路

【解決のヒント】本校での取組から

荒尾支援学校では毎年、福祉サービス事業所説明会「A R A ・ S H I 福祉・就労セミナー」を実施しています。

このセミナーは有明圏域にあるほぼ全ての福祉サービス事業所（46カ所）が参加し、サービスの種別ごとに（本年度は7回シリーズ）保護者へマンツーマンで情報提供して下さる取組です。参加対象は荒尾支援学校保護者のほか、荒尾市内の特別支援学級在籍保護者です。

これは上記アンケート結果に挙げられた「ほしい情報」をすべて効率的に得るチャンスでありまた、福祉サービス事業所の皆様と顔なじみになるチャンスでもあります。

ご参加・ご活用をお待ちしております。

■障がい者雇用に関する情報 4件

- ・就職決定のプロセス ・障がい者雇用をする企業 ・県内雇用の実績
- ・一般枠での就職

【解決のヒント】本校での取組から

特別支援学校における就職決定のプロセスの根幹は「現場実習」の実施です。企業等は一般的に、「障がい」の有無よりも、自社の業務がこなせて、自社に馴染むことのできる人材を求めます。「現場実習」は、2週間程度実際の職場を体験する学習ですので、企業等が求める人材ニーズと本校生徒がマッチするかどうか判断する場となっています。

障がい者雇用を進める企業情報については、本校分は進路指導部へお尋ねください。玉名安定所管内の情報や県内の情報はハローワークに確認してみます。

療育手帳がない場合の、障がい者就労支援や福祉サービスの活用についてはケースバイケースですので、具体的に進路指導部にご相談ください。

■卒業生に関する情報 3件

- ・卒業生の進路 ・進路を決めた理由 ・利用している人からの話

【解決のヒント】本校での取組から

荒尾支援学校では、毎年進路だより「わーく&らいふ」の最終号（3月）で、卒業生保護者へのインタビューを特集します。この記事には「進路をきめたポイント」「学校や家庭で身につけた力」「もっとがんばればよかったこと。」など卒業生保護者の生の声がいっぱいです。本年度も最終号で同様の特集を予定していますのでご期待ください。

なお、本校の進路だよりは、本校ホームページから過去3年分閲覧可能です。

URL <https://sh.higo.ed.jp/arao-s/>

■相談に関する情報 2件

- ・相談窓口 ・自治体の窓口

【解決のヒント】本校での取組から

障がい児者とその家族のさまざまな相談窓口として有力なのが、有明圏域の自治体が業務委託した「委託相談支援事業所」です。玉名に3カ所・荒尾に1カ所あります。

前述した福祉サービス事業所説明会「ARA・SHI福祉・就労セミナー」でも、「委託相談支援事業所」が講師になるプログラムがあります。本年度は11月に実施予定です。

■進路決定までの流れに関する情報 2件

- ・卒業前の流れ ・卒業前の準備 ・親のすべきこと

【解決のヒント】本校での取組から

卒業前の手続きの流れ等は、毎年本校進路だよりに掲載しています。本校ホームページに掲載されていますのでご覧ください。（NO43 令和元年12月23日発行）なおホームページをご覧になれない場合は進路指導部までお問い合わせください。印刷したものをお届けすることも可能です。

■家庭教育に関する情報 1件

- ・家庭における療育方法

【解決のヒント】本校での取組から

将来の進路を見すえて担任とじっくり話うことが大切です。

日頃の連絡帳でのやり取りの他、電話や本校で実施している会議（PATHミーティングや個別教育相談等）の場などを活用して、担任とじっくり意見交換をしてみてください。家庭と学校が連携した目的（未来）志向型の取組をすることにより、成果が期待できます。

■就労の目安となる力に関する情報 1件

- ・就職に必要な能力

【解決のヒント】本校での取組から

本校高等部一般学級では、就職に向けた力の獲得状況を「はたらく準備評価シート」で評価します。これは生活面・就労面・コミュニケーション面・精神面の各項目を5段階で評価するものです。このシートは、就職に必要な力の全体が網羅されていますので、興味のある方は本校進路指導部までお問い合わせください。評価シートの様式をお届けすることも可能です。